沿　革

本学の歴史は、明治 30 年代初頭に始まる。日本の近代化が進み、時あたかも新しい世紀になろうとしたその頃、本学の前身である京都高等工芸学校（明治 35 年（1902）、現在の左京区吉田に設置）と京都蚕業講習所（明治 32 年（1899）農商務省所管として現在の北区大将軍に設置）が開学した。

京都高等工芸学校は、昭和５年（1930）に左京区松ヶ崎に移転後、昭和 19 年（1944）に京都工業専門学校と改称された。他方、京都蚕業講習所は、大正３年（1914）に文部省直轄の京都高等蚕業学校となり、昭和６年（1931）に京都高等蚕糸学校、さらに昭和 19 年（1944）には京都繊維専門学校と改称された。両前身校は、いずれも約半世紀にわたり、伝統文化の継承発展と近代工学の導入によって斯界に貢献し、当時の最先端技術を担う多数の優れた人材を世に送り出した。

昭和 24 年（1949）、戦後の学制改革により、両前身校はそれぞれ工芸学部、繊維学部となって、新制京都工芸繊維大学が発足した。

昭和 26 年（1951）には、夜間の工業短期大学部を併設し、以来、本学は、戦後の経済復興とそれに続く高度経済成長の中で、社会の要請と産業界の要望に応えて、幾度かの教育研究組織の改組・新設を行った。

昭和 40、41 年（1965、1966）には相次いで大学院修士課程として工芸学研究科（６専攻）と繊維学研究科（３専攻）を設置した。昭和 43 年（1968）には、繊維学部を北区大将軍から工芸学部のある左京区松ヶ崎に移転し、両学部を現在の松ヶ崎キャンパスに統合した。

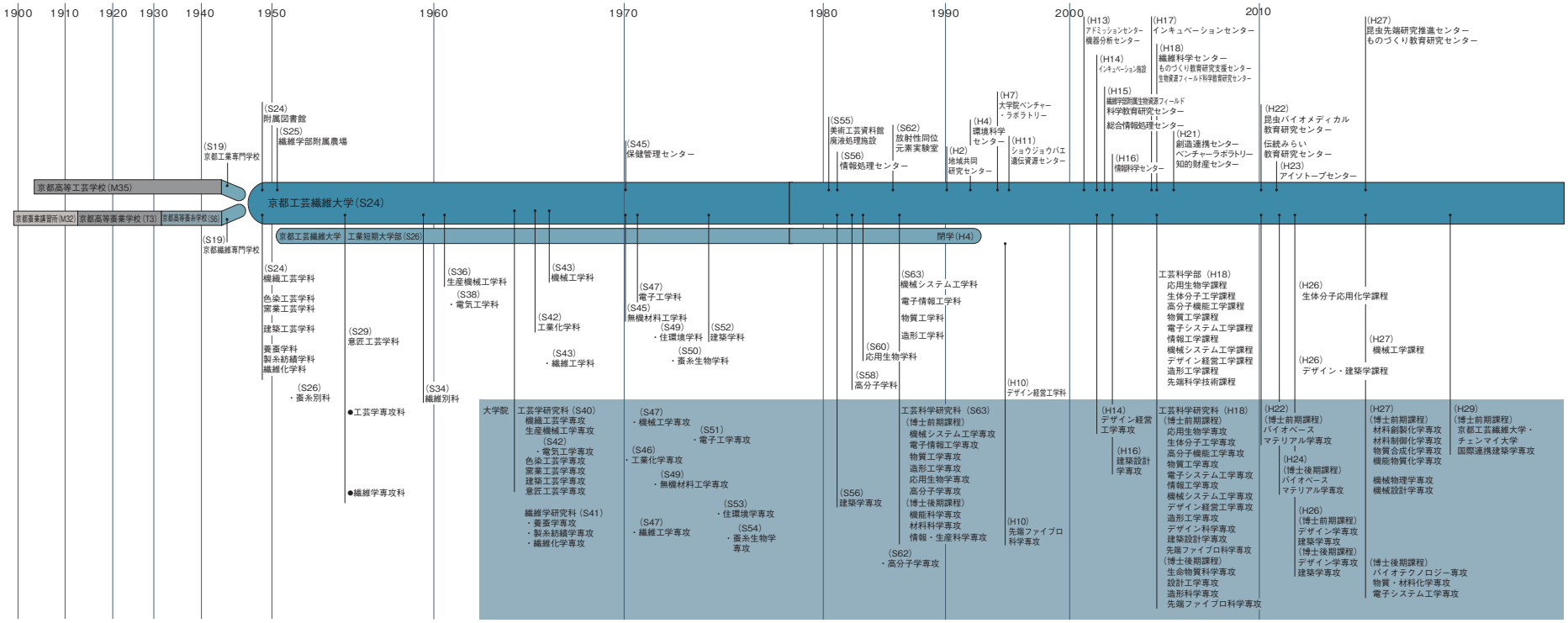
昭和 63 年（1988）には、基礎的研究の主要な担い手である大学の役割が注目を浴びるようになった情勢に応えて、教育研究組織の大幅な改革と大学院博士課程の設置を計画し、工芸学研究科と繊維学研究科を合体して、博士課程（３専攻）を含む工芸科学研究科を設置。また、学部学科の改組や、工業短期大学部を廃止して両学部における昼夜開講制の実施など、本学発足以来の抜本的な改革を行った。

平成 10 年（1998）には、繊維学部にデザイン経営工学科、大学院工芸科学研究科に先端ファイブロ科学専攻（独立専攻）を設置し、平成 14 年（2002）にはデザイン経営工学専攻、平成 16 年（2004）には建築設計学専攻を設置した。

平成 16 年（2004）４月からは国立大学法人として新しいスタートを切った。新しい運営体制の下、これまでの歴史や伝統、学問的蓄積を踏まえて、21 世紀の個性的な産業と文化を創出する「感性豊かな国際的工科系大学」を目指して、全学をあげて取り組みを開始した。

平成 18 年（2006）４月には、時代の変化に柔軟に対応できる教育体制を強化するため、教育研究組織の大幅な改組を実施。全学協力体制によって、教育内容や指導をさらに豊富にし、大学院と一体化した教育研究を行うため、従来の２学部を再編統合して工芸科学部を新設し、これまでの７学科を３学域 10 課程に再編した。また、本学の伝統である「繊維」に関する教育研究を積極的に推進するため、繊維科学センターを設置した。

平成 22 年（2010）４月には、大学院工芸科学研究科にバイオベースマテリアル学専攻（独立専攻）の博士前期課程、平成 24 年（2012）４月には同専攻の博士後期課程を設置した。

平成 27 年（2015）４月には、課程・専攻体系を改組し、学部段階からの連続性・一貫性を踏まえた大学院教育を展開していく体制に改めた。

平成 29 年（2017）４月には、グローバル人材の育成に資するため、ジョイントディグリープログラムである京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を、博士前期課程にタイのチェンマイ大学と共同設置し、博士前期課程 15 専攻、博士後期課程 8 専攻となった。本学は、その前身校の時期をも含めて、京都の伝統文化に根ざす芸術的意識を基盤として、現代工学の基礎と応用面にわたる広い分野について教育研究活動を行っている。